

NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol.56

発行日 2006年1月25日
発行者 NICE沼津国際交流協会
(企画広報部会)
所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所地域づくり推進課国際交流室内
☎055-934-4717



2006年も NICEな活動を!

国際理解教育部会

第14回英語 & 日本語スピーチコンテスト

～スピーチコンテストを終えて～

10月16日(日)、沼津市立図書館において「第14回英語&日本語スピーチコンテスト」が開催されました。

今年は、双方ともに応募者多数で、キャンセル待ちの方が出るほど盛況でした。

英語の部には、沼津市はもちろん裾野市、清水町、長泉町、三島市からも参加者が集い、高校生から社会人まで年齢も経験も様々な方々が、自分の考えを堂々と英語で主張されました。毎年参加される方、聴衆の視覚に訴えるパフォーマンスもあり、年々出場される方のレベルが上がって、スピーチ本来の姿を追求するものになってきていると実感しました。

日本語の部には、インドネシア、マレーシア、中国、ベトナム、ラオス、ペルーからの参加者が集いました。学生の方は、辞書を片手にスク립トを書かれたためか熟語表現が多く、きりっとしたスピーチ、逆に社会人の方は、日常会話で使う日本語で語りかけるため、わかりやすいスピーチで、参加者それぞれの背景が表れて

いました。

毎年、このコンテストを聴くのが楽しみというリピーターの方が来てくださっていることから、このイベントが根付いてきていると思っていますし、運営するスタッフの励みになります。国際理解教育部会のスタッフの皆さん、御協力ありがとうございました。

●コンテストの結果

〈英語の部〉

優勝 篠田 実里

「Media and How We View the World」

準優勝 鈴木留美子

「The Path to Better Communication!」

第三位 小島 恵

「My opinion」

〈日本語の部〉

優勝 ユー・イエンリン

「20歳（はたち）の私」

準優勝 アン・ヒエンスン

「日本に来て2年半」

第三位 タイラ・カーリーナ

「大人は自分の幼い頃の心を復活させましょう」

▼英語の部優勝 篠田 実里さん



▲日本語の部優勝 ユー・イエンリンさん

(山本敦子)



国際理解教育部会では、国際交流協会の前身から参加されている方や経験のある方に加えて、新しく入会された方たちが、お互いにコミュニケーションをとりながら、わきあいあいと活動をしています。このスピーチコンテストでも21人のスタッフが協力して運営を行いました。関心のある方、ぜひ私たちと一緒に活動を楽しみましょう。

第2回国際交流サロン

国際理解教育部会

インターナショナル・クッキングサロン

～カナダのクッキングサロンを終えて～

11月13日(日)、金岡地区センターにおいて、カナダのクッキングサロンが開催されました。当日は、カナダの爽やかなイメージに相応しく、美しい秋晴れにも恵まれ、お二人の素晴らしいカナダ人講師、ジル・ジェファーソンさんとキャシー・ストッカーマンズさんのご指導の下、参加者20名とスタッフ10名は楽しく、和気あいあいとした雰囲気の中でカナダの伝統的な家庭料理に挑戦しました。



以下がその献立です。

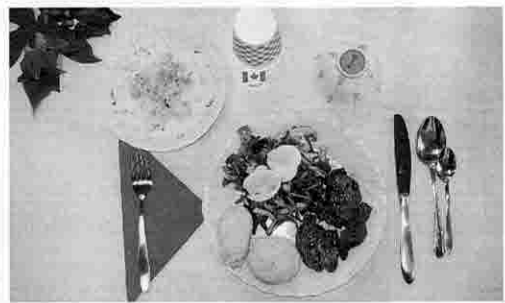
- (1) クラムチャウダー…アサリの他に、ホタテや蟹も入ったシーフードいっぱいの食べ応えのあるカナダ東海岸風の一品。
- (2) セイヴァリー・ビスケット…ハーブの効いた甘みのないビスケットで、スープと一緒に食されるもの。
- (3) カナダ風ポークソテー…ポークのヒレ肉をソテーし、メープルシロップ、バルサミコ酢、バターをタププリ使った口当たりの良いソースで頂きました。
- (4) 香味サラダ…サラダ用ほうれん草、マッシュルーム、ゆで卵、チーズ等をイチゴがベースのピネグレットソースで和えたもの。
- (5) 季節の果物の甘露煮とアイスクリーム、メープルティー…ビスケット生地で作った団子をブルーベリー一杯入ったソースで煮込み、アイスクリームを添えたボリュームのあるデザート。

調理担当のキャシーさんは、これだけ多くの献立を次から次へと実に手際よく、親切に指導して下さいました。

皆さん、ここまで読んで下されば、私達の試食がいかにも、豪華なランチであったかが、容易にご想像できるでしょう。味、ボリュームとも参加者に大好評でした。しかも、そのお料理をさらに演出したのが、ジルさんの心憎いばかりのテーブル・セッティングでした。白いテーブルクロスの上にはカナダの国旗を連想させる赤い紙ナプキン、フォーク、ナイフ、スプーンが整然と並び、更には、所々に、カラフルなメープルの葉がセンス良くディスプレイされ、私達をカナダの美しい秋へと誘いました。

ナプキンの裏に当たりナンバーを付け、当たった人にはメープルシロップ等がプレゼントされる趣向も皆をワクワクさせました。

今回の参加者は、募集第1日目で定員に達した事からも分かるように、意欲的な方達が多く、講師への質疑応答も、質問を全て直接英語でするなど、このサロンに積極的に関わって下さいました。講師、参加者、スタッフ、この三者が好ましい関係で相互に機能し合う時、最高級のイベントが実現するのだと思いますが、今回のカナダのクッキングサロンはそう言う意味で、“皆で作り上げたイベント”という印象を強く持てた分、大成功だったとスタッフ一同自負しています。関心のある方、次は是非ご参加下さい！



(川村汎子)

友好都市提携20周年記念訪問団に参加して

沼津市と岳陽市が友好都市提携して今年で20年になりました。この記念すべき節目の年を、岳陽で祝おうと岳陽市からの要請を受け、大橋助役を団長とする沼津市公式訪岳団6名と、日野原岳陽部会長を団長とする沼津市民友好訪岳団33名は、10月16日成田を発ち、アモイ・長沙を経由し、夜8時頃岳陽に入りました。

私は1992年98年と今回で3回目の岳陽訪問になりますが、20周年記念行事とともに、この13年間に岳陽市がどのような発展をし、どう変化してきたか、見たこと聞いたこと体験したことなどの感想を併せて報告いたします。

岳陽のホテルは7年前と同じ「南湖賓館」ですが、前回宿泊した棟よりさらに奥に新館が出来ており、そこに私達一行が到着するとロビーには、赤いチャイナドレスの若い女性が両側にずらりと並び、まさに「熱烈歓迎」と表現するのがピッタリの出迎えを受けました。

また、岳陽市政府や人民代表大会（日本の議会に相当）の幹部など懐かしい方々との再会を喜び合い、その興奮も冷めやらぬまま遅めの夕食をとり、朝3時半に沼津を発ってからの長い1日が終わりました。



2日目の朝を迎えました。部屋の窓から外を見ると南湖が目の前に広がり、対岸が朝靄に霞みうっすらとみえます。

朝食までの時間を利用しホテル周辺を散策しました。まず目に入ったのはホテルに隣接した3ホール位のゴルフ練習場ですが、ゴルフ人口が何人で、どれ位利用されているのか疑問です。次に湖畔に下りてみました。湖畔は幅6mほど

のカラーブロックで舗装された遊歩道が整備されており、岳陽の市民がジョギングや散歩・釣りなど、思い思いに楽しむ姿がありました。13年前は、こうした市民生活にゆとりを感じることは全く無かったことを考えると、大変な変わりようです。

朝食の後は、岳陽市政府庁舎に羅碧昇市長を表敬訪問しました。羅市長からは、訪問団への歓迎と、両市の友好に努力された先人達の功績を称えとともに、20年の節目を機に今後ますます友好の絆を強めていこうと挨拶があり、大橋助役の答礼と記念品の交換が行われ、両市の力強い握手が交わされました。



その後、君山・岳陽楼の見学です。君山は洞庭湖に浮かぶ周囲1kmほどの島で、普段は船で渡りますが、この時期は渇水期であるため水位が下がり、陸続きになっていました。しかし岳陽市内からは、洞庭湖から長江への流出口を渡らなければなりません。13年前はここを、車や人を目一杯積み込んだ鉄製の箱舟で渡りましたが、これで転覆事故などは無いのだろうかと不安を感じたものです。現在はここに全長9kmの洞庭湖大橋という、横浜ベイブリッジと同じ斜張橋の近代的な橋が完成しています。前後の道路整備も含めて、短期間にこれだけのものを作る資金力と技術力など、中国の経済成長の一端を肌で感じました。

午後からは、沼津市立病院に研修生を派遣してきた、岳陽第一医院と第二医院への表敬訪問と経済開発区の視察です。経済開発区は、岳陽市街地の東の広大な面積を整備し、国内外の企

岳陽部会

業を誘致して経済発展を図ろうとするもので、片側4車線の幹線道路が既に完成し、幾つかの企業も進出して新しい市街地が形成されつつあります。主催者からは、日本の企業・沼津からの企業進出を熱望する声がありました。因みにこの説明の通訳は、沼津から留学している矢部龍樹さんで、留学の素晴らしい成果を見せていただきました。



3日目の午前は、第八中学と湖南理工學院の訪問です。第八中学では、全校生徒が校門から歓迎式場までの両側に並び私達一行を出迎えてくれました。ここでは“FMぬまづ”が募集した作文コンクール入選者の2人の中学生、望月康太郎君と加藤愛さんがそれぞれ将来の夢を発表し、全校生徒の大きな拍手を受けました。



また、この中学校には、本多前岳陽部会長の寄贈により、中日友好會館が設置されております。1階が展示室、2階が資料室と図書室になっていて、展示室には生徒の素晴らしい作品が展示されています。今後沼津市の中学生との文化交流の場として活用が出来ればと思いました。

湖南理工學院は南湖の東岸に位置し、学生数

2万2千人余の4年制大学で、沼津からの留学生もここで学んでいます。過去2回訪れましたが、7年前の面影ですら僅かしか残っていません、草が伸び放題であったグラウンドは全天候型トラックに整備され、校舎や学生寮も新しくなっていました。さらに、南側の広大な土地を造成し建築中の校舎もあり、これらの様子を見ると、将来はこの造成中の所に学校の中核部を移転してくる計画のようです。

この日の昼食は、3～4人ずつ12班に分かれ岳陽市民の家庭を訪問し、食事を共にしながら交流しました。私は湖南理工學院の王雅平先生のお宅へ4人で伺いました。王先生のお姉さんのご家族と一緒に、用意していただいた家庭料理を囲んで9人での賑やかな食事になりました。湖南料理は、四川料理と同様に中華料理の中で一番辛いと言われていますが、私達のために辛味を抑えてくれ、おかげで大変美味しくいただくことができました。食材や調理法・味付けなど食文化のことで話がはずみ、予定していた2時間はあっという間に過ぎて、午後の行事に向かうため王先生のお宅を後にしました。

こうした市民レベルの交流と相互理解が、友好をさらに発展させていくためには大変重要なことだと思います。今はこちらからの一方通行ですが、近い将来岳陽の一般市民も来沼できるようになるでしょう。その時はあたたかく迎えたいですね。



午後は人民代表大會常務委員會への表敬訪問と、夜は「20周年記念祝賀大會」がデパートに併設された500人くらい収容できるホールで行われました。式典では、冒頭主催者から本多先生がこれまで沼津・岳陽友好のためにつくされた数々の功績が紹介され、本多先生もご高齢をおし

岳陽部会

て舞台上がられ「これからも命のある限り友好に尽くしたい」と感動的な挨拶をされました。

その後、岳陽の子供や青年たちによる歌舞や、現役をリタイヤしたご婦人方のファッションショー、高齢者グループによるミニオーケストラなどが披露され、訪問団からは本多先生の独唱や訪問団員による踊りや合唱を披露して文化交流を行いました。



4日目は公式行事はなく、岳陽郊外にある端午の節句の起源ともなった憂国の士「屈原」を祀る屈子祠と、明代から続く村民2千人全員が張姓の漢民族の村、張谷英村の視察です。そこまでのアプローチは、幹線道路は整備されていたが、農村部へ入ると舗装はされているものの穴だらけで、バスがゆれる度に体が座席から浮き上がるような大変な悪路です。通過する小さな町も寂れた感じで活気がなく、13年前とほとんど変わっていません。今まで開発の最先端を見てきただけに、その格差の大きさは異様に感じました。しかしテレビなどで見るもっと辺境の地や、そこで暮らす少数民族に比べれば、まだ都市に近いだけに豊かなのかもしれませんが、こうした社会の二重構造・三重構造からくる矛盾を、中国は今後どう解決していくのか大変心配です。そんなことを考えながらの郊外視察でした。



夜は送別会です。以前からの友人達や今回新たに知り合った方々と、「今度は沼津で会おう」「また岳陽へ来て下さい」と、それぞれ固い約束をし、名残を惜しみつつ岳陽最後の夜が終わりました。

5日目は長沙經由杭州泊、6日目は帰国するA班と別れ、B班はさらに杭州市内観光、7日目は杭州から150kmほど離れた義烏を視察しました。ここは世界の工場といわれている中国の窓口の機能を果たしている都市です。日本の100円ショップは、その仕入れの殆どがこの義烏を通して行われているとのことですが、そのダイナミックな経済活動の様子は実際に見てみなければ理解できないでしょう。

8日目はいよいよ帰国です。杭州に戻り杭州空港から帰国の途につき、快適なフライトで無事帰国できました。

今回の旅行は総じてメンバーにいろいろ助けていただいたり、天候にも恵まれ、楽しく快適に過ごすことができました。事前の準備や旅行中の気配りなど役員の皆様には、大変お世話になりました。

こうしたことに感謝とお礼を申し上げ、報告を終わります。

(会員 杉山 智)

国際交流フェア

11月20日秋晴れの中、“国際交流フェア”が例年と同じ学習院沼津游泳場で開催されました。年々参加して下さる在住外国人の方や沼津市民の方が増え、今年は400名を越える参加者で賑わいました。

ブースでは、イラン、ペルー、インド、インドネシア、中国、岳陽、台湾、カラマズー、ロシアのそれぞれのお国や地域の文化や食べ物を趣向を凝らして紹介していただきました。また、華道、書道、煎茶道、琴、着装、日本食などの紹介をし、在住外国人のみならず私たち日本人にとっても日本文化を見直す良い機会となりました。

展示の見学、食体験とあわせて、中庭ではそれぞれのお国の舞踊やダンス、箏曲、日本舞踊、着装を楽しみました。



どのブースもそれぞれの特徴が出ていて素晴らしかったのですが、特に今回は、沼津岳陽友好都市締結20周年の節目の年を迎えた「岳陽」ブースと、姉妹都市カラマズーとの交流を紹介している「カラマズー」ブースを取り上げてみました。

●岳陽ブースでは、友好都市締結20周年記念で中国岳陽市を訪問した沼津市民訪問団の記録写真の展示、岳陽政府より戴いた記念品や記念式典を大々的に一面に掲載した岳陽新聞を展示し、またその時の記録ビデオテープの放映をしました。

来場者には君山名茶・銀針茶や中国の菓子が好評でした。



●カラマズーブースは展示部門と試食部門の二つの柱を立てて活動をしました。

展示部門は、姉妹都市締結時の様子を写真や文章、年表を用いて紹介した「沼津・カラマズー姉妹都市の歴史」、本年度ALTのジェイソン先生の授業風景や英語ガイドクラスの様子を紹介した「カラマズーALT紹介」、アメリカ全図、ミシガン州全図、カラマズー市街図とだんだん地域を狭めてカラマズーの位置をわかりやすく説明した「ここだよ、カラマズー!」、今夏、来沼したカラマズー市民訪問団の沼津滞在を写真と日程で紹介した「カラマズー市民訪問団滞在記」、昨年度派遣留学生松本君のカラマズー留学中の様子を紹介した「派遣留学生報告」等を中心にカラマズー関係の贈答品や書籍を展示しました。

試食部門は、カラマズー名産のブルーベリージャムとブルーベリーティーを現地から取り寄せ、来場者の皆さんに楽しんでいただきました。

ふれあい部会

今回は中高生のスタッフ6名が前日の準備から当日の活動、片づけまで大活躍で、若い力の台頭を印象づけました。



また、今回のフェアでは、4月1日沼津市と合併をした戸田村が長年に渡り行ってきたロシアとの交流を紹介するブースを設けていただきました。戸田村とロシアの交流に長年ご尽力してこられた当協会員でもある山口展徳さんに、戸田とロシア、ロシアと山口さんの関わりについて、特別にザ・ナイスに寄稿していただきました。

「戸田とロシア・私とロシア」

山口展徳

私とロシアの関係は、昭和60年地元戸田の博物館を訪れた時に始まりました。

館長さんである、佐藤雅彦さん（バザールでゴザールのCMの製作者）のお父さんの説明や、この博物館の創設者の山田三朗元村長が、ソビエトとの友好な関係、近代洋式造船について、“戸田号”の価値などを面白くユーモアを交えて話すのを聞き、戸田村の住民としてもっと多くの人達にソビエトとの交流を理解をしてもらいたくてボランティアとして案内を始めました。

今回の国際交流フェアでは25枚の絵を展示しました。これらの絵は、今年の3月25日にロシアのサンクトペテルブルグ市で開催された、露日友好150年記念事業の一環で、～150年後の日本を描こう～と、サンクトペテルブルグ市の有名な画家で日本が大好き、日本語も上手くて今回の来日で6度目になるナターリア・マキシムーアさんが日ロ文化交流センターのお世話で戸田村を始め下田市・富士市・沼津市・韮山町・長崎市を昨年10月9日より12月9日まで滞在し、そのうち戸田・沼津・韮山・長崎と私がお世話

をしたさいに描いた絵をコピーしたものです。紙面の関係上説明のみになりますが、どのくらい戸田とロシアの関わりが深いかご理解いただけることと思います。

国民宿舎伊豆戸田荘のお部屋から見た3枚…
 ①白砂青松の後ろに控える不二山②夕映えの不死山（富士山）③御浜岬湾口を望む④御浜岬の下がり松から、東京大学戸田寮水泳場を望む⑤諸口神社…岸壁から鳥居を見た富士山⑥宝泉寺境内…プチャーチンが宿泊したお寺で水夫2名のお墓と観音堂を望む⑦大行寺…プチャーチンと幕府の代表川路が、日露和親条約第6条を改定した石碑⑧松城邸玄関…プチャーチンの娘さん、オリガ・プチャーチナーが戸田に来てお泊りなられたお宅⑨柿崎の弁天島より下田市街を望む…1854年11月4日朝9時頃デアナ号が安政の大地震（今で言う東海沖地震）に遭遇する。又この時より7ヶ月ほど前、吉田松陰がこの弁天島に隠れてペリーの船に密航を企てる⑩下田市玉泉寺山門前…日本で最初の領事館となる⑪玉泉寺…ロシア人水兵の四名のお墓。その他、日露和親条約を締結した下田市七間町の長楽寺、稲生沢川から見た下田富士、デアナ号が座礁した富士市三四軒屋沖とその周辺3枚、沼津市びゅうおから見た狩野川（ロシア人が渡し船により対岸まで着き戸田村に向かう）、韮山町の江川邸、長崎では稲佐山から湾口を望む、船着場からグラバー邸、三菱造船所を望む、他。

この他ビデオを利用して、5月初めSBSテレビでナターリアと女優で絵描きでもある城戸真亜子さんの共演で日本とロシアの関係や互いの絵に関しての美意識、10月中旬ごろNHKの世界遺産でサンクトペテルブルグの紹介がありましたのでお見せしました。



留学生だより from カラマズー

アメリカという国の文化にふれて

野中 一生

First of all, I want to appreciate my family, my relatives, all members of the sister city committee, and all my friends who give me such a great experience. By staying here, as I've thought, I am recognized again that we can't live without being helped, and need to say thank you about it. I really appreciate those who supported me to go to study abroad. Thank you very much.



Talking of the study abroad, I've been here for four months. I've spent a great time with my host family, my neighbor, my friends, and many more kind people. What I feel most here is that Americans are good at insisting on themselves, even though it has not only good aspects but also bad. They insist on their own opinion to whoever it is. In addition, if their thoughts were totally different from each other, they keep persisting in their opinion as if it is usual. And, once they finish discussing, they can talk about another thing with laugh as though nothing happened before. So now, I think I can have my own opinion, and insist on it. However, the insistence can hurt others. They only think about themselves, so most of them will say what they think before considering other's feelings.

Besides, I think it's important for my life to try anything new to me. The life is just one time, so it wastes my life if I wouldn't try anything new, I guess. What I feel bored due to my prejudice might turn out to be interesting if I try.

I think I can grow up and realize good and bad points of Japan, my bad aspects, and what I said above.

Last of all, thank you again everyone who let me go to study abroad.

Year End Party 2005 千本フラザ

12月3日(土)
18:00~20:30

年の瀬の恒例となったYear End Partyは、リキ・ディキシーランド・クルーの軽快な演奏をバックに参加者一同(120名)楽しいひとときを過ごしました。

各々が持ち寄った料理を囲みながらの歓談、若いジェイソン先生と彼の仲間のALTの先生たちと一緒に歌とゲーム、そして、仮装のコンテスト、フィナーレは「聖者の行進」で参加者全員が輪になって行進して今年のYear End Partyは終わりました。



年明けから盛りだくさんなイベント…

マレーシア農業青年来沼!

〈日程案〉

1月23日(月)	ホテル到着・昼食 オリエンテーション 沼津市長表敬訪問／歓迎会
1月24日(火)	農業講義 農業体験(手もみ茶・いちご狩り)
1月25日(水)	地震・津波対策についての講義 びゅうお見学／陶芸体験・着付体験
1月26日(木)	漁業視察／干物加工体験 戸田視察
1月27日(金)	ホストファミリー対面式 ホームステイ
1月28日(土)	ホームステイ
1月29日(日)	ホームステイ
1月30日(月)	自主研修日／歓送会
1月31日(火)	離沼



昨年度「コーカサス青年招聘事業」より

第14回 春節祭

中国を中心としたアジア地域で行われている旧暦のお正月を在住の外国の皆さんと共に祝い、交流しましょう。

と き 2006年1月29日(日)
11:00~15:00

と ころ 新仲見世通り

内 容

胡弓演奏・中国語の歌・華架拳演技・和太鼓の演奏・中国雑貨コーナー・指文字実演コーナー・友好都市岳陽市の紹介パネルの展示など

※参加自由です。先着1,000名に商店街での割引券を配布します。お誘い合わせて、楽しいひとときを過ごしましょう♪



昨年度の「春節祭」より

祝

秋の叙勲で協会員(元副会長)橋本静子様
が旭日雙光章を11月9日皇居で受章
いたしました。
おめでとうございます。

イベントの問い合わせ先

NICE 沼津国際交流協会
TEL 055-934-4717
(月~金曜日 8:30~17:15)